

いきいきと輝き、誇れるまちの情報誌「広報ゆのまえ」

ゆのまえ 4

2015
No.406

「届け、僕らの魂」

※関連記事14ページに掲載

特集1 鳥インフルエンザ発生から1年

「命と向き合う」

特集2 新生活の決意を表明

「若者たちの挑戦」

広 報



ゆのまえ

2-9
特集1「命と向き合う」
10-11
湯前中学校、小学校、保育園 卒業式
12-13
特集2「若者たちの挑戦」 ～Dreamer's Challenge～
14-15
トピックス
・湯前小卒業生が記念植林
・田園シンフォニー1周年記念イベント
・慈光保育園発表会
・歴史文化財を巡るモニターツアー
・認知症サポーター養成講座
・湯前町家庭教育講演会
16
オープンスクール、 湯前中立志式
17
湯前保育園ひな祭り、 新刊が入りました
18
婦人会だより、ごみ情報
19
保健師だより、戸籍の窓
20
龍谷カップ、 編集あとがき

〈4月の表紙〉



慈光保育園の発表会。園児は歌や踊り、体操を1年間頑張って練習してきました。スローガンは「私たちの力で地域を元気にしたい」。園児たちの頑張りに会場はスタンディングオベーション。園児は言葉通り、地域に元気を届けていました。

昨年4月13日、県内に起こった衝撃。多良木町の養鶏場で熊本県初の鳥インフルエンザが発生しました。誰も悪くない、誰も憎めないこの病気。見えない敵の拡大を防ぐことができたものの、多くの鶏が数日の間で殺処分されました。一年がたとうとしている今、私たちはこの出来事からどんなことを学ばなければならぬのでしょうか？

【特集1】鳥インフルエンザ発生から1年

命と向き合う

—いのち—

5.8 終息！。

11万2千羽、苦渋の決断 2千人で拡大防ぐ

重く苦しい決断

昨年4月13日、多良木町の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザウイルスが確認された。経営者が同じ養鶏場が相良村にあり、両養鶏場の鶏、11万2千羽を殺処分するという、重く、苦しい決断が下されました。熊本県で初の発生。

県内では緊張が高まりました。4日間で県、市町村、農業団体関係職員、自衛隊員など約2000人が動員される総力戦。発生確認後、すぐに養鶏場での鶏の殺処分や道路での消毒作業が始まりました。

鶏肉や卵は安全

鳥が感染するA型のインフ

インフルエンザにかかる可能性はとても低く、日本では鶏肉や卵を食べて病気に感染したケースもありません。

素早い対応で拡大防ぐ

発生農場から半径3キロ以内では移動制限（飼養羽数100羽以上、2戸が対象）、半径3キロから10キロ圏内では鶏や卵の搬出制限がかけられました。

国の指針では感染拡大を防ぐために、発生を確認したあと24時間以内の殺処分、72時間以内の埋却が定められています。殺処分は翌日の14日に

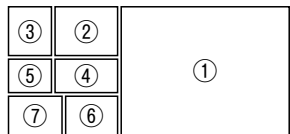
ルエンザウイルスをまとめて鳥インフルエンザウイルスといえます。ウイルスは鳥への影響の強さ（病原性）から高病原性と低病原性に分けられます。食用に育てられる鳥が高病原性鳥インフルエンザウイルスに感染すると、ほとんどが死んでしまいます。

鳥インフルエンザにかかった鳥のフンや内臓に触れ、体内に大量のウイルスが入ったとき、ごくまれに人へも感染することが知られています。

日本では、病気にかかった鶏の処分や施設の消毒などを徹底しています。生活では病気の鳥に触れたり、フンを吸い込んだりするようなことはほとんどありません。人が鳥

終了。鶏舎内や敷地内に消毒用石灰をまき、多良木町は15日の午後7時、相良村は16日午前7時半に埋却・消毒などの作業をすべて終えました。

本町も13日の午前7時半から防疫対策本部を設置し、情報や人員を集めました。50人が殺処分、消毒の作業にあたり、町内2カ所に消毒ポイントを置きました。作業が終了した次の日から10日後に発生農場から3キロ以内で検査をし、すべて陰性。3キロから10キロ以内の制限が解除され、以降も拡大することなく、5月8日に終息が宣言されました。



※写真は県広報課提供

- ①鶏舎を埋め尽くす鶏
- ②手作業で作業をする人たち
- ③ポリバケツに二酸化炭素を流して鶏を殺処分した
- ④死鳥の袋詰めを終えたあと
- ⑤横谷峠に置かれた消毒ポイント
- ⑥作業前後に健康診断を受ける殺処分従事者
- ⑦消毒ポイント設置前には手作業で消毒をしていた



INTERVIEW |

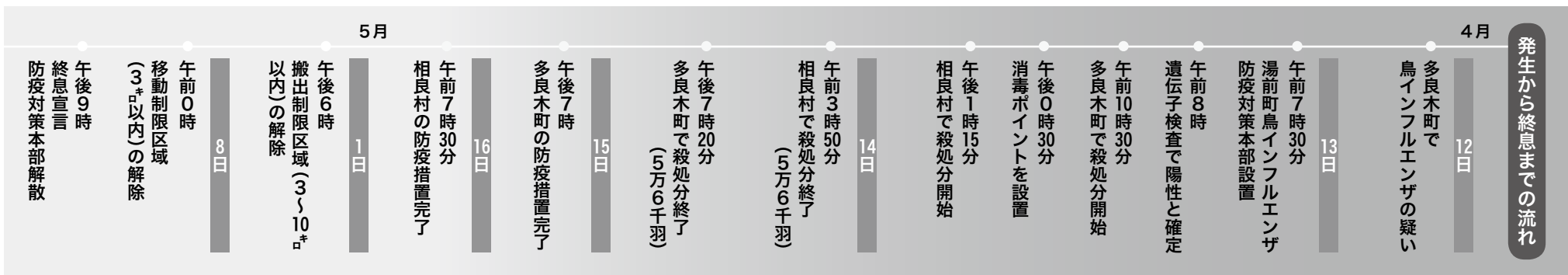
分かっていても つらい作業



湯前町役場総務課
勸米良 康隆 主事
(30=上村)

夜中に電話を受け、午前5時過ぎに町役場に集合し、多良木町の町民体育館へ行きました。体育館内はあわただしく、防護服などを着た後、午前11時ごろから現地に向かい、午後8時ごろまで作業をしました。

鶏舎内は蒸し暑く、防護服を服の上から2枚重ねていたので作業中は汗だく、ゴーグルは曇り視界も悪かったです。雨ですぬまでぬかるむ地面。足を捕まえたときに伝わるくる鶏の温かさや、鳴き声。仕方ないと分かっていてもつらい作業でした。たくさんの人が協力して、被害が拡大しなかったことは本当によかったと思います。





おまえ ひふみ
尾前 一二三さん(85＝尾前精肉店)
プロフィール: H13年の設立当初から人吉球磨食品衛生協会指導員部
会湯前・水上地区会長を務め、町内の食品衛生の推進に力を入れる。
自らも徹底した衛生管理を心がけ、町内の学校や保育園、福祉施設へ
精肉を卸している。

くほた こ
久保田 ツヤ子さん(77＝水上村 水上荘)
プロフィール: 水上村の温泉旅館「水上荘」女将。H16年から人吉球磨
食品衛生協会指導員部会湯前・水上地区副会長。尾前会長をサポート
し、2町村の食品衛生を推進している。

安心して地元の食材を 食べてもらいたい

「一日で愛情が 湧くんです」



えさをあげる宮崎さんに
近づいてくる鶏たち



鶏はハウス3棟で育てられていた

プロフィール: 多良木町久米生
まれ。神奈川県茅ヶ崎で33
年間小学校教諭として働いた
のちに湯前町へ。キクラゲの
栽培と鶏卵の生産を8年前に
始める。多い時期は200羽の
鶏を3棟のハウスで育てる。
鶏卵の生産はことし中に辞め
る予定で、現在希望する人に
鶏を譲っている。



みやざき ゆういち
宮崎 勇市さん(66＝浅鹿野)

店頭で待つてくれて いる人も

私は管内への卵の宅配を
中心に、町内の各施設やスー
パー、大阪の生協などにも出
荷をしていました。約1年前
から卵がよく売れるようにな
り、お店で卵が運ばれてくる
のを待つていた人もいまし
た。しかし、売れ始めるまで
5年ほどかかり、えさ代もか
さむので経営はなかなか厳し
いです。えさの配合によって
卵の味に違いがあり、生産者
は配合を工夫しています。毎
日、朝晩えさをやるので、な
かなか遠出はできませんね。

対策後は祈るばかり

鳥インフル発生直後に、宅
配先から「大丈夫？」と心配の
声もありました。私も出荷制
限で区域外には出荷できませ

伝えたい 思い

んでした。私は管内の出荷が
ほとんどでしたが、区域外に
出荷する人は卵を処分するし
かなかったと思います。
当日すぐに保健所から電話
があり、石灰での消毒や野鳥
が鶏舎内に入らないように屋
根を作り直しました。野鳥か
ら小動物へ伝染し、鶏舎内に
入ったとすれば防ぎようがあ
りません。見えない敵の封じ
込めを祈るばかりでした。

捕まえるときの 「ごめんね」

鶏を飼っているとどうして
も愛情が湧きます。「飼って
から食べるまで」が先輩から
の教えですが、捕まえてさば
くのはとてもつらいことで
す。「ごめんね」と言いなが
ら、鶏を捕まえます。1日飼
うと情が湧いてしまうという
人もいます。普段は肩に止

まったりするぐらい近寄って
きますが、捕まえるときには
離れていきます。鶏は本能
でえさをもらえるか、殺され
るかが分かるのです。拡大を
防ぐために仕方ないことは分
かっていますが、元氣な鶏ま
で殺さなくてもよいのではと
思う気持ちも当然あります。

ありがたかった 地元の理解

あれから1年、町での影響
はほとんどありません。当時
は多少売り上げが落ちたもの
の、全く売れないということ
はなく、その後はまた元通り
売れるようになりました。地
域の消費者は良い意味でこの
事態にも騒ぎすぎず、冷静に
判断してくれました。万が一
発生してしまったとき、今回
のように冷静に判断してほし
いと思います。



(尾前) 私たちは毎年の食の安
全を学ぶ講習会を開いていま
す。指導員として年5、6回
地区の全店舗を回り、店舗の
衛生もチェックしています。
(久保田) 健康診断と違い、食
の安全を守るための検便は赤
痢やO157など5種目を
検査します。地区会員の受診
率は人吉球磨で一番です。
(尾前) 会員の衛生への意識
が球磨郡内に伝わり始めまし
た。他地区の指導員とも研修
や意見交換をしています。
(久保田) 発生当時は宿泊の
キャンセルや子どもが卵を食



べなかつたこともありまし
(尾前) 肉は厳格な検査で流
通しています。感染した鶏肉
は市場に出ず、食べて感染す
ることもありません。自信を
持つて安全だと言えます。
(久保田) 素材ごとに冷蔵庫、
包丁などを分け、温度管理や
清掃を徹底しています。産地
や消費期限などの表示もしつ
かりとやっています。
(尾前) 大きい事故を一度起
こすと取り返しがつきませ
ん。自分のためにやっている
ことが地域のため、なにより
も消費者のためになります。

ブロイラーは県内第3位

熊本は水と緑に囲まれ、農産物に恵まれて
います。宮崎や鹿児島を含めた南九州は
養鶏が盛んな地域です。現在町にブロイ
ラー(肉用の鶏)の生産者はいませんが、人
吉球磨はブロイラーの生産で県内第3位に
入っています。ブロイラーの生産は平成
11年以降、県内で増え続けていましたが、
平成25年度に大幅に羽数が減っています。

採卵鶏 県全体 2,409,846羽 前年から－9.1%			
順位	地域名 (郡市)	戸数	羽数
1位	菊池	17	968,604
2位	玉名	16	499,339
3位	宇城	16	407,529
7位	球磨	10	53,077

採卵鶏: 卵を産む鶏

ブロイラー 県全体 3,544,993羽 前年から－15.9%			
順位	地域名 (郡市)	戸数	羽数
1位	阿蘇	26	1,285,400
2位	玉名	13	743,150
3位	球磨	12	348,500

平成26年度熊本県畜産統計より
表は県内11郡市中の順位

人が食べるために動物は命を落としている

研修で肉用牛の世話をする野田さん。馬術部で普段から馬と接している野田さんは、牛とも真剣に向き合って作業していました。額に流れる汗がその頑張りを物語っていました。



農業専攻の学科がある南稜高校では農場研修があります。6学科すべての1、2年生が7、8人ずつのグループに分かれて1週間ずつ研修を受けます。作物を専攻している野田さんもことし3月に2回目の研修を受けました。野田さんに授業や研修で感じたことをインタビューしました。

研修では肉用牛、乳用牛、搾乳に分かれてそれぞれ作業をします。私は肉用牛を担当し、えさの準備や牛舎の掃除、毛並みの手入れなどをしました。毎日午前6時半、午後4時の2回、30分から1時間ほど作業をします。肉用牛は20頭以上いて、2、3人で交替しながら世話をしました。

私が小学6年生のときまで祖父が鶏を飼っていて、肉にするためにさばいていましたが、鶏がかわいそうで見ることができませんでした。2年生の2学期に生物活用という授業で、私は初めて鶏をさば

きました。生き物が肉になる瞬間を体験し、その時は何とも言えない感情がこみ上げてきました。

高校に入るまでは何気なく食事をしていましたが、授業や研修でたくさん動物と接してきて、肉になった牛や鶏がどんな風に育ってきたのかを考えるようになりました。人が食べるために動物は命を落としています。料理をしてくれる人だけでなく、家畜を育ててくれた生産者や生き物に対しても感謝をするようになりました。授業やこの研修で命のありがたさを学ぶことができました。

「ありがとうのいただきます」

私たちは多くの生き物から栄養をもらわなければ生きることができません。「食」は命の維持だけではなく、人の心と体の成長を支えています。湯前小中学校の給食では地元の豊かな食材やそれを生かした献立で「残食ゼロ」を続けています。町の子どもたちは給食を残さないことで命に「ありがとう」を伝えているのです。家庭では愛情のこもった料理を食べて「おいしい」と喜ぶ家族の笑顔。食からたくさん幸せが生まれています。

幸せの裏には「生き物の命を奪う」というつらい現実があり、そのことから目を背けたくもありません。しかし、「命をいただく」私たちが知らなければならぬことがあります。生き物のことや生産者の思い、鳥インフルエンザの知識もその一つです。安全なものを安全だと知り、食べられて命を落とす生き物の命を無駄にしないこと。私たちはそれらの命によって生かされています。

特集 命と向き合う(完)



私たちにできること、それは、失われる命に責任を持つこと。

命のありがたさを こ学校で学んだ

の だ ともひろ
野田 智央さん(南稜高生産科学科作物専攻3年=馬場)



プロフィール:授業で条件や管理が難しい無農薬米や苗からのトウモロコシを栽培するなど日々実習に励む。馬術部長としても部員を引っ張り、インターハイを目指す。将来の夢はハウスのメンテナンスなど農業にかかわる仕事に就くこと。



卒業生の門出の詩では卒業生が「この6年間は世界に一つだけの大切な思い出。これからは自分

が決めた道を一歩ずつ歩んでいきたい」と誓いました。卒業生はきびきびと立ち上がった。お辞儀をしたりと立ち住まいで6年間の成長を保護者や教師らに見せていました。荒木龍二PTA会長は「立派に育ってくれたことを誇りに思う。湯前小で感じた仲間の大切さや保護者、恩師への感謝を中学校でも持ち続けること。中学校では自分で決めることが多くなるが、失敗を恐れずに何事にもチャレンジしてほしい」と卒業生にエールを送りました。



湯前小学校卒業式

恩師へ感謝を伝える卒業生



ネクタイにジャケット、記念の日にふさわしい格好

平成26年度の湯前小学校卒業式が3月25日に同校体育館で開かれ、卒業生32人が6年間の大切な思い出を胸に刻んで、中学校へと旅立ちました。



涙をこらえて合唱する卒業生

湯前中学校



卒業証書を受け取る生徒

湯前中学校卒業式



後輩と涙の別れ

世界に一つだけの思い出きざむ

湯前小学校
湯前保育園

卒園・卒業おめでとう

涙につまる大きな感謝

吹奏楽部の演奏で卒業生が入場。卒業証書の授与では、担任の教師から名前を呼ばれた卒業生が元気に返事をし、一人ずつ高田哲弘校長から卒業証書を受け取りました。高田校長は「入学以来、湯前中の伝統と校風を後輩たちにつなげてくれた。地域の皆さんから卒業生の学ぶ姿やあいさつでたくさんお褒めの言葉をいただいた。自分の言動を反省する謙虚さと目標に向かって成長しようとする向上心を持つてこれからは頑張ってください」と祝辞を述べました。那須孝博PTA会長は「皆さんは義務教育の9年間でたくさん

平成26年度第68回湯前中学校卒業式は3月15日、同校体育館であり、卒業生32人が3年間の中学校生活を終え、友達や後輩、教師たちとの別れに涙を流し、新しい一歩を踏み出しました。



人に見守られて育ってきた。最高の感謝の心を持ちながら、社会人・高校生として自分で判断できる人間になってほしい」とエールを送りました。

卒業生の「門出の詩」では保護者や教師への感謝や後輩へのメッセージを伝えていました。卒業生が「15年間育ててくれてありがとう」と保護者に感謝の気持ちを伝えると保護者の目にも涙。卒業生だけでなく、教師や後輩も卒業生の言葉に涙を流し、それぞれの涙にたくさん「ありがとう」が込められています。

みんなで遊んだ思い出は宝物

湯前保育園卒園式は3月21日に、同園で開かれ、12人の卒園児が保育証書を受け取り、発表や歌で成長した姿を保護者らに披露しました。



湯前保育園卒園式

元気な返事で証書を受け取る園児



保護者へ自分の夢を伝えた

会場のスクリーンに映されたのは園児一人一人の思い出の写真。卒園児は保育士から名前を呼ばれると元気な声で返事をし、苗床由美園長から保育証書を受け取りました。卒園児が保護者へ証書を渡し、将来の夢を伝えると、保護者は「頑張っている」と温かい言葉を送っていました。

卒園児たちの門出の詩では季節ごとに運動会や発表会などの思い出を発表。「みんなで仲良く遊んだ思い出は宝物です」と元気な声で発表し終えると保護者や保育士も涙していました。苗床園長は「保育園に入園したときからは一人でできなかったことがいまでは立派に一人でできるようになった。頑張る姿でたくさんの人に元気と勇気を与えてくれた。小学生になっても元気な姿でいてくれることを願っている。いつまでもみんなを応援し続けたい」と話していました。

卒園児には一人ずつ入園からの思い出がつづられたアルバムと名前が組み込まれたメッセージの写真を渡されました。卒園児は大切な思い出を胸に刻み、新しい一歩を踏み出していきます。



大きな目標に向かって頑張る浅生さん

バレーボールで インターハイへ

あそう かつゆき
浅生 克幸さん

(15 = 中猪) 湯前中学校 ▶ 熊本工業高校

浅生さん 湯前中を卒業して、熊本工業高校電気科へ進学を決めた浅生さん。「バレーボールでインターハイを目指したい」と男子バレーで九州大会や全国大会出場経験もある同校への進学を決めました。

浅生さんは湯前小学校でバレー部、湯前中では吹奏楽部に入部しました。昨年の湯前中体育祭では赤団の団長としてリーダーシップを発揮。「みんなで一つになる一体感を感じることができました」と話すとおりに、団員を引っ張り、練習から本番まで一丸となって体育祭を盛り上げました。文化祭ではバンドのメンバーとしてドラムを担当。わずか一週間で完成まで仕上げ、当日はその演奏に大きな拍手がわき起こりました。

浅生さんは「電気科でたくさんの資格を取り、大学に進学できる学力も身につけたいです。バレーの強豪校なので、スターティングメンバーに入り、インターハイに出場できるように頑張ります」と元気に話していました。

勉強も部活も あきらめない

湯前中学校 ▶ 宮崎県宮崎日本大学高校

なかた りん
中田 凜さん

(15 = 上里1)



湯前中で勉強と部活を熱心に頑張った中田さん

中田さん 湯前中学校を卒業して、宮崎県にある宮崎日本大学高校総合進学科へ進んだ中田さん。将来の夢はスポーツ選手の食を手がけるフードコーディネーターなど、「食にかかわる仕事」に就くこと。栄養学を学ぶことができる日本大学への進学を視野に入れて同校への進学を決めました。

湯前中時代はバレー部に所属。部活動後に、そろばんを習い、部活も勉強も熱心に取り組みました。中学生のうちにそろばん2段に合格するという目標を昨年11月に達成し、ことし3月には3段の試験も受けています。中田さんは「去年の中体連では満足できる結果は残せなかったけど、みんなでまとまり、後輩から『ありがとうございました』の言葉もらったときは本当にうれしかったです。高校でもバレー部に入部しようと思っています。1日に授業が7限ありますが、勉強と部活どちらか一つを頑張るのでなく、どちらも頑張りたいと思います」と笑顔で話していました。

【特集2】新生活の決意を表明

若者たちの 挑戦

~ Dreamer's Challenge ~

宮崎県立小林高校 ▶ 日清食品
株式会社陸上競技部

ひろすえ すぐる
廣末 卓さん

(18 = 田上出身)



さらなる飛躍に期待がかかる廣末さん

4月は入学・入社、新しい生活が始まる季節です。新たな道へと進む町の若者たち。大きな夢を持って町を飛び立った「挑戦者」たちにインタビューしました。

大舞台での活躍を誓い、町を旅立った一人の若者。廣末さんはことし3月に高校を卒業し、4月から東京に本社を置く日清食品(株)に入社、陸上競技部に所属しています。

を抜き、4区を区間3位。廣末さんの活躍で小林高校は3年連続5位入賞を果たしました。

廣末さんは湯前中学校を卒業して、陸上の名門、宮崎県立小林高校に進学。駅伝部で努力を積み重ね、才能をどんどん伸ばし続けました。全国に名を轟かせたのは2年前。インターハイ、国民体育大会いずれも5,000mで日本人1位、全国高校駅伝ではエース区間の1区で全国の名だたる選手をおさえて区間賞を獲得するなど、タイトルを総なめしました。昨年の全国高校駅伝では怪我に苦しみながらも、エースの意地で9人

廣末さんは「高校3年間は充実していて、とても短かったように感じます。これからトラック競技で勝負していきます、2020年の東京オリンピックに出場できるように頑張ってきます」と決意を語りました。兄の香さんは福岡県のトヨタ自動車九州の陸上競技部に所属し、同じくオリンピックを目指して頑張っています。兄弟で実力を磨き合っているのか。若いアスリートの今後に注目です。

列車と歴史の魅力を堪能

終着駅の歴史文化財を巡るモニターツアー

終着駅の歴史文化財を巡るモニターツアーが3月21日、町内一帯であり、人吉球磨郡市内外から45人が参加し、湯前の歴史を楽しんでいました。

ツアーはくま川鉄道(株)の田園シンフォニーを使った旅行として企画されました。ツアー客は熊本市交通センターを出発し、人吉温泉駅へ。田園シンフォニーに乗って、湯前に到着したあと、ゆのまえ温泉湯楽里で昼食をしました。

ツアーでは溝下昌美文化財保護委員長と町教育委員会の藤崎正人学芸員が町を案内。参加者は国指定重要文化財で県内最古の木造建築物の城泉寺や昨年11月に保存修理工事が終わり、約430年前の姿を復元した八勝寺などを見学。参加した山口真知子さん(60＝熊本市)と中原光子さん(60＝熊本市)は「田園シンフォニーに乗れることを楽しみにしていた。仏像は立派で、こんなにきれいなお堂は熊本市内にはない。日帰りでも『旅に来た』という非日常感を味わうことができた」と話していました。



町自慢の歴史を堪能した参加者たち

意見を交わして理解を深める

認知症サポーター養成講座

湯前小学校5年生40人と湯前中学校3年生28人が認知症サポーター養成講座を受講して、新しくサポーターに認定されました。

湯前中3年生は2月27日に受講。読み聞かせグループ「なずなの会」による認知症の本の読み聞かせのあと、5、6人のグループに分かれて話し合いをしました。各班に保健師や町職員などが一人ずつ入り、認知症の正しい知識を学んでいました。「認知症の人とどんな接し方をすればよいか」という質問に、生徒は「笑顔で優しく声をかける」や「無理を言わないこと」などと自分なりの意見を出し合っていました。23日には小学校でも開かれ、受講した小中学生には認知症サポーターに配られる「オレンジリング」が渡されました。3月27日には湯前町保健センターで大人を対象に同様の講座が開かれ、大人から子どもまで認知症の理解を深めていました。



紙いっぱい意見を出した生徒たち

志を支える親でいて

湯前町家庭教育講演会

湯前町家庭教育講演会が2月28日、農村環境改善センターであり、湯前小中学校の児童生徒やその保護者など約250人が「教育プロレス」を観戦。プロレスから社会のルールや人の痛みなどを学びました。

教育プロレスは八代市在住のプロレスラーで「プロレスリング求道軍」の幸村ケンシロウ代表が提唱。プロレスで社会のルールや親と子のあり方などを伝えていて、県内を中心に活動しています。

プロレスラーによる巧みな技やリング場での激しい試合に観客は大盛り上がり。試合後、幸村さんは「曖昧な夢ではなく、志を持つこと。年齢は関係なく、自分の道は自分で決めるべき。目標に向かって頑張る子どもを支えるのは親の役目。子どもが思い悩んでいることに気づき、相談に乗ってあげられる存在でいてほしい」と来場した親子にそれぞれメッセージを送りました。



試合でメッセージ送るプロレスラーたち

TOPICS

～町の話～

モミジと一緒に成長楽しみ

湯前小卒業生が記念植林

湯前小学校卒業を記念した植林が2月17日、ゆのまえグリーンパレスグラウンドゴルフ場一帯の町有林で行われ、卒業生31人とその保護者が参加し、共同作業で植林を楽しんでいました。

本町では節目の年に植林をすることが伝統になっていて、この植林も毎年行われています。今回は150本のイロハモミジが用意され、親子一緒にクワで穴を掘ってモミジを植えていきました。長靴を履き、軍手を着けて植林をする親子たち。卒業生たちは斜面を元よく駆け回り、次々と作業をこなしていました。親が子を指導する姿もあり、作業中は親子での会話もはずんで、笑顔があふれていました。ことし3月に湯前小を卒業した上米良拓さん(植木)は「みんなで作業ができて楽しかった。2、30年後に木が大きくなっていたら嬉しい」と話していました。



仲良く作業をした参加者たち

湯前駅でもおもてなし

田園シンフォニー1周年記念イベント

くま川鉄道の観光列車「田園シンフォニー」の運行開始1周年を祝う記念イベントが3月15日に開催され、人吉球磨郡市内外から95人が乗客し、湯前駅でも住民らによる乗客のお出迎えや駅舎でのミニコンサートでおもてなしをしました。

田園シンフォニーは旧車両の老朽化で昨年導入されました。季節をイメージした外観だけでなくヒノキをふんだんに使った内装も見どころ。現在5台が運行し、観光列車として毎日運行しています。

同日、人吉温泉駅から出発した列車をお出迎えするために住民らも湯前駅に駆け付け、「ゆっくん」が描かれた旗を振って乗客を歓迎しました。湯前駅の駅舎ではバイオリンとアコーディオンのデュオ「ドゥ・マルシェ」が軽快な演奏。湯前町イメージキャラクター「ゆっくん」も駆け付け、乗客はカメラやビデオを構えるなどして楽しんでいました。



駅舎は春の温かいハーモニーに包まれた

1年間の成長にスタンディングオベーション

慈光保育園発表会

慈光保育園の発表会が3月1日に農村環境改善センターであり、園児124人が保護者ら約450人の前で歌や遊戯、体操など完成度の高い発表を披露しました。

発表会は「園児たちの元気を地域へ届ける」というスローガンで開かれました。藤岡孝史園長は「1年間園児たちはしっかりと成長してきた。これだけたくさんの人の前で発表する機会は一生のうちに何度もない。今日はたくさんの応援と拍手を園児に送っていただければ」とあいさつ。園児たちは合奏や歌、ダンス、4、5歳児によるエイサーなどを、大勢の観客が見守る大舞台で立派に発表しました。

最後を飾ったのは年長児による体操。園児が11段の跳び箱に挑戦するときには「頑張れ!」と保護者が応援していました。逆立ち歩きや片手側転など大人顔負けの体操に観客は立ち上がって大きな拍手を送っていました。



大舞台でも大成功を収めた園児たちの発表

若者と町の課題を討論

湯前町オープンスクールが2月25,26日にゆのまえ温泉湯楽里宿泊棟であり、九州管内6大学の学生13人と町関係者ら21人が一緒になって情報技術を使った町の課題の解決策を話し合いました。



町民へ考えを伝える大学生ら

取り組みは町ICT（情報通信技術）利活用推進協議会が主催。25日には高齢者福祉、教育、情報発信の3グループに分かれ、参加者はワークショップ形式で町の課題を洗い出し、「公衆無線LAN」を使った解決策を話し合いました。

26日には発表があり、「情報発信」のグループはコンピューターを使い、現実の風景に情報を重ね合わせて表示する技術（AR）や登録した商品に近づくと自動でスマートフォンに商品の説明や町の情報が表示される技術（iBeacon）を取り入れる提案をしました。

情報発信グループの西岡克浩さん（22＝長崎総合科学大）は「グループには環境や建築、デザイン学科など専門分野が違う学生の個性が出て良い発表ができた。ARなど情報技術の活用は町民の反応も良かった。情報技術は若者だけでなく、町の高齢者にも受け入れてもらえるのではないかと話していました。



町民と大学生が一緒に話し合いをした

湯前中立志式

15歳の誓い 引き締まる思い

平成26年度湯前中学校立志式は2月28日に同校体育館で開かれ、ことし15歳になる生徒（現3年生）42人が将来の夢や学校生活の目標を保護者らに発表しました。

立志式は生徒たちが将来を考える機会にしようと毎年開かれています。「立志の誓い」では、生徒は自分の目標を書いた色紙を持って保護者らの前に立つと、一人ずつ大きな声で抱負を発表。部活や勉強など、将来の夢を叶えるために頑張ることを保護者らに誓いました。「根性」の文字を書いて発表した福田慎之介くん（上村）は「周りをしっかり見て行動するには我慢や根気が必要。3年生になったので、目標を忘れず新しい気持ちで頑張りたい」と話していました。

フリーアナウンサーの野田亜紅さんによる記念講演もあり、生徒たちは「他人からのアドバイスに耳を傾けること」などのコミュニケーションの大切さを学んでいました。



自分の目標を発表する生徒

コミュニケーションの大切さを伝えた野田アナウンサー

可愛いの衣装に笑顔

湯前保育園児がひな祭り
湯愛利用者と交流

湯前保育園のひな祭りが3月3日に同園であり、園児82人と高齢者生活福祉センター湯愛の利用者17人が誕生を祝ったり、歌を歌ったりしてひな祭りを楽しんでいました。



利用者へプレゼントを渡す園児

取り組みは園児がひな祭りで湯愛の利用者と交流できるよう毎年開かれています。会場内には園児が作ったおひなさまが飾られ、3月生まれの園児7人と湯愛利用者4人をみんながプレゼントや歌でお祝いしました。



盛り上がったおひなさまの間違い探し

保育士がひな祭りの由来を話したあと、年長児はお内裏さま、おひなさまなど手作りの衣装に着替えて登場。湯愛利用者からは「可愛かな」と声が上がりました。年長児がはつきやしゃもじなどを持ってステージに上がる「おひなさまの間違い探し」がありました。園児も利用者も間違いを見つけると笑顔。最後にはお互いに握手をして別れを惜しんでいました。湯愛利用者の蔵座ハツさん（87＝中里2）は「園児と一緒に誕生日を祝ってもらって楽しかったです。（園児の元気をもらって）これからも元気でいられるような気がします」と話していました。

新刊が入りました！

中央公民館図書室



水やりはいつも深夜だけ
窪 美澄(著) 角川書店

セレブママとしてブログを更新しながら、周囲の評価に依る主婦。仕事が忙しく子育てに参加できず、妻や義理の両親からうとまれる夫。自分の娘の発達障害を疑い、自己嫌悪に陥る主婦。出産を経て変貌した妻に違和感を覚え、若い女に傾いてしまう男。父の再婚により突然やってきた義母に戸惑う、高一女子。同じ幼稚園に子どもを通わせる家々の、もがきながらも前を向いて生きる姿を描いた、魂ゆさぶる5つの物語。



新しい農業の風はモクモクから
やって来る
木村 修(著), 吉田 修(著), 青山 浩子(著)
商業界

三重県経済連の職員だった二人が順次脱サラし、前身の「農事組合法人伊賀銘柄隊振興組合」を設立、流通担当の木村修と、獣医として養豚指導をしていた吉田修。二人がそれぞれ社長理事と専務理事として、「農事組合法人伊賀の里モクモク手づくりファーム」に名称変更。安心できる食材づくりとそれを提供する飲食店で、農業を大切にす農業のテーマパークづくりを目指す。青山浩子は、農業ジャーナリスト。



教場
長岡 弘樹(著)
小学館

君には、警察学校を辞めてもらう。この教官に説かれたら、終わりだ。全部見抜かれる。誰も逃げられない。前代未聞の警察小説！

死ぬまでに行きたい！
世界の絶景
日本編
詩歩(著)
三オブックス

絶景案内人・詩歩が厳選！47都道府県を網羅。誰も知らない日本が見つかる。アクセスや観光情報、体験談など旅行ガイド付き。



思い出のマーニー
〈上・下〉
(岩波少年文庫)
ジョーン ロビンソン(著),
ベギー・フォートナム(イラスト),
松野 正子(翻訳)

スタジオジブリ映画「思い出のマーニー」の原作本。養い親のもとを離れ、転地のため海辺の村の老夫婦にあずけられた少女アンナ。孤独なアンナは、同い年の不思議な少女マーニーと友だちになり、毎日二人で遊びます。ところが、村人はだれもマーニーのことを知らないのです。



マダニに気をつけましょう！

～春から秋はマダニの活動が活発に!?～

保健師だより



フタトゲチマダニ

マダニに咬まれると、病気にかかり重症化することがあります(日本紅斑熱や重症熱性血小板減少症候群(SFTS))。マダニは比較的に大型(吸血前で3～4mm)のダニで、日本中の森林や屋外に生息しています。

※衣類や寝具に発生するヒョウダニなど家庭内に生息するダニとは違います。

県内でも、平成25年5月から今まででマダニに噛まれた事例が5件ありました。日本紅斑熱やダニの仲間のツツガムシの吸血で感染する「つつが虫病」が毎年何件が発生しています。

マダニに咬まれないことが重要です!!

外出するときは、次のダニ予防をしましょう



①森林や草地などマダニが多く生息する場所に入るときは、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を履き、肌の露出を少なくしましょう。併せてDEET(虫よけ剤の成分)を含む虫よけスプレーを使うと効果が高まります。



②屋外で活動をしたあとはマダニに咬まれていないか確認しましょう。ガムテープを使って服についたダニを取り除くことも効果的です。



③吸血中のマダニに気づいたときは、すぐに病院で受診しましょう。マダニに咬まれたあとに発熱があったときも、すぐに病院で受診してください。

ダニから感染する日本紅斑熱やつつが虫病は、発熱、発疹、だるさ、頭痛が主な症状です。併せてマダニによる重症熱性血小板減少症候群(SFTS)はおう吐、下痢などがあります。どれもすぐに症状は出にくく、1週間以上たってから発症することもあります。

参考資料:厚生労働省、NIID国立感染症研究所

湯前町保健センター

保健師 横矢 和美

戸籍の窓

平成27年2月1日～平成27年2月28日届出分

ご結婚おめでとう

氏名	地区名	氏名	地区名
大坪 憲和	(あさぎり町)	横野 裕昭	(上 村)
中村 優香	(田 上)	木戸口 朋美	(相良村)

たんじょうおめでとう(うぶごえ)

氏名	保護者	地区名
あらたけ 紅華	英樹	(田 上)
しもむら 愛華	隆宏	(上里1)

ご冥福をお祈りします

氏名	地区名
篠原 愛	(瀬戸口)
桑原 ノブ	(中 猪)
那須 ツボミ	(瀬戸口)
的場 ミツメ	(浅鹿野)

香典返し

氏名	地区名
松下 幸明	(上染田)
東 洋子	(野中田2)
椎葉 ムツメ	(中 猪)
桑原 猪八	(中 猪)
那須 竹生	(瀬戸口)

<訂正とお詫び> 平成27年1月31日に発行した広報ゆのまえ2月号の21ページ戸籍の窓「たんじょうおめでとう」の中でお名前(ふりがな)に誤りがありましたので、訂正してお詫び申し上げます。
(誤)村上 智楓(むらかみ ひはや) → (正)村上 智楓(むらかみ ちはや)

おじゃまします地域婦人会です！

婦人会だより No.30

<湯前町地域婦人会 会長 橋田寛子>

▼2月28日(土) 清掃奉仕

青年団と一緒にゴミ収集をしました。空き缶、ペットボトル、ビニール袋、弁当の食べ残し、たばこの吸いがらなどたくさんのごみがありました。マナーはぜひみんな良くなったと言うものの、まだまだと感じます。

ポイ捨てはやめましょう。



今後の予定

4月26日(日) 会員研修を計画しています(場所はえびの方面)。会員どなたでも参加できます。くわしくは後日！

▼3月16日(月) お別れ支部長会

1年間お世話になりました。反省を兼ねて楽しく会食をしました。



総会のお知らせ

- 郡の総会
4月5日(日)あさぎり町 せきれい館 午前9時半～午前1時からはチャリティーショー
- 町婦人会の総会
4月15日(水) 午後7時～
講演「自分でできるエクササイズ・乳がんのおはなし」
講師は公立多良木病院健診センターから

3月のごみ情報

2月末人口 4,221人

燃えるごみ(kg)	65,240
	52,310
	52,650
	-340

燃えないごみ(kg)	3,790
	3,270
	2,980
	+290

リサイクル品(kg)	13,320
	10,400
	12,300
	-1,900

粗大ごみ(kg)	310
	270

有害ごみ(kg)	40
	20

一人一人の意識が、ごみを変えていきます。ご協力をお願いします。



リサイクルステーションからのお願い!

*布類の出し方

ビニール製品・わた製品(雨がつば、わた入れ、枕、クッション、ぬいぐるみ)は燃えるごみに出してください。

◆2月25日(水) 人吉市のゆめマートでマイバックキャンペーンを行い、幟旗を掲げて買い物客にマイバックの利用を呼びかけました。人吉球磨のゆるキャラも参加し啓発しました。

◆不法投棄は犯罪です

先日横谷地区で冷蔵庫の不法投棄がありました。不法投棄は法律違反です。5年以下の懲役もしくは1千万円以下の罰金、またはこれらが併科されます。見付け次第、警察に相談し、調査・証拠収集をします。



※4月の不燃物収集は**1水**と**15水**です。(第1・第3水曜日)
※4月29日(水)祭日(昭和の日)は、ごみ収集はお休みです。ご注意ください!

引っ越しごみは、正しく分別して計画的に出してください

春は転勤、進学などで引っ越しが増える季節です。引っ越しで家庭から出た不用品、家財道具、ごみは適切に処分してください。粗大ごみは、個人で直接、人吉球磨クリーンプラザへ持ち込みましょう。古雑誌や段ボールなどリサイクルできるものは、ひもでしっかりと結び、リサイクルステーションへ出してください。自治体ごとにごみ出しのルールが違います。ルールを守り、衛生的な生活を心がけましょう。



打ち込みコンテストで優秀賞を受賞した
岩野選手(左)

湯前少年 柔道クラブAが優勝

龍谷大学女子柔道部合宿10周年記念
湯前町少年少女柔道大会

龍谷大学女子柔道部合宿10周年記念湯前町少年少女柔道大会は3月14日に湯前小学校体育館であり、郡市内と八代市の小学生と高校生で構成された8チーム約60人が参加し、湯前少年柔道クラブAチームが優勝しました。

大会は世界大会で入賞する選手もいる龍谷大学女子柔道部(堀田幸宏監督=京都府)の本町での合宿10周年を記念して開催されました。町少年柔道クラブの藤岡教頭監督(40=上里3)が12年前まで同部のコーチだったことがきっかけで合宿が始まり、こしは同13日から16日まで行われました。

大会は小学生5人、高校生2人の7人制であり、準決勝では湯前少年柔道クラブAとBが対戦。Aチームが勝利し、その勢いのまま優勝しました。

各クラブの代表が出場し、優秀賞3人を選ぶ受け身コンテストでは清川優希選手(湯前小6年=植木)が、打ち込みコンテストでは岩野寧々選手(同4年=瀬戸口)、藤岡顕将選手(同6年=上里3)が優秀賞を獲得しました。

互いに「頑張ろう」大学生が技を指導

大学生との乱取りでは子どもたちが世界レベルの選手らへ積極的に技をかけ、同大の選手は子どもたちに丁寧に指導していました。

龍谷大の田中千暁主将(4年)は「たくさん子どもたちに教えることができて楽しかった。子どもたちの姿を見て、私も頑張ろうという気持ちになった」と話していました。湯前少年柔道クラブの井上貴斗選手(湯前中1年=中里2)は「大外刈りを習った。大学生の指導はとても分かりやすかった。龍谷大の選手のように全国で活躍したい気持ちが強くなった」と話していました。



世界レベルの選手に技を仕掛けていく子どもたち



〈成績〉

- ①湯前少年柔道クラブA
(岩野寧々、藤岡慈将、黒木聡真、井上貴斗、中礼友志、金子紗也佳、西村高太朗)
- ②多良木地区少年柔道会
- ③湯前少年柔道クラブB
(藤山憲史郎、浜崎魁世、那須啓太、清川優希、藤岡顕将、嶽村未来、平川陽)
- ③錦町少年柔道クラブ
- ▼受け身コンテスト(本町関係)
清川優希
- ▼打ち込みコンテスト
岩野寧々、藤岡顕将

編集あとがき

▼1年前、鳥インフルエanzaが発生した時、私も第1陣で殺処分を体験しました。足をつかみ、苦しそうにもがく鶏から伝わる温かさで「命」を感じました。涙が出るぐらいつらい作業でした。

特集を組み終えた日の夕食は偶然にも親子丼。一目見たとき「ありがとう」と「ごめんね」という感情が湧き上がってきました。一口一口その味をかみしめました。私自身この特集で生き物の命の尊さを感じることができました。私はきつとこの日食べた親子丼の味を忘れることはないでしょう。

▼湯前中の卒業式では生徒も保護者も教師も涙。卒業生が「15年間育ててくれてありがとう」と保護者に伝える場面では私も涙が出そうになりました。小学校から9年間で作られた強いきずなが卒業生の涙に表れていました。きつと夢に向かって各地で活躍してくれることでしょう。皆さんの頑張りを住民の皆さんへお伝えできるように、広報ゆのまえも進化していきます。(宏)



ご意見・投稿はこちらから